

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年11月30日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3070103183
法人名	株式会社 朋久
事業所名	さくら園 紀伊風土記の丘
所在地	〒640-8301 和歌山県和歌山市岩橋1399-1 (電話) 073-474-7739

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階
訪問調査日	平成21年11月6日
評価確定日	平成21年12月10日

## 【情報提供票より】(平成21年 8月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 8月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	11 人
利用定員数計	9 人
常勤	4人, 非常勤 7人, 常勤換算 5.35人

### (2) 建物概要

建物構造	木造り
	2階建ての 階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000-一部60,000円	その他の経費(月額)	12,500 円	
敷金	有( 円) (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 500,000 円) 無	有りの場合償却の有無	(有) 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,000 円		

### (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2			
要介護3	6名	要介護4		1名	
要介護5		要支援2			
年齢	平均 85.3歳	最低	79歳	最高	92歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人進正会寺下病院、須佐病院、医療法人松本診療所、中西歯科医院
---------	-----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

紀伊風土記の丘に向かう遊歩道のわきに位置する当該ホームは、行き交う人々からの声かけがあったり、オカリナや古代楽器の演奏などコンサート機会が多くあるなど、四季折々の景観と共に豊かな生活が享受されています。ホームで「いつもそばにいるよ」と理念に謳い、利用者が安心して住み続けられるように工夫を重ねています。利用者には出来るだけ役割を担って頂けるように配慮し、朝の掃除は皆で出来るように支援し、梅干し作りやぬか漬けをするなど知恵を出し合った生活となっています。年に三回家族会が開催し家族と交流し、利用者の日常を写真に撮り家族に知ってもらおうとともに、家族の絆がいつまでも続くように配慮されています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を受けて、職員間で話し合い改善課題を確認しています。出来る事から具体化に向け検討しています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、職員に自己評価の意義を伝え、意見を募り管理者がまとめています。改善課題を掲げ、実行に移すように検討しています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	元婦人会会長、弁護士、ボランティアの参加で2ヶ月に一度行われています。行事案内やホームの取り組み報告等を行い、意見の交換が行われています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪は多く、来訪時には意見や要望を積極的に聞くように努めています。家族会も年3回行われており、意見の言いやすい状況を作っています。また、来訪の少ない家族については毎月のお便りの他にも電話を入れるなどコンタクトをとり意見を聞いています。出された意見に対しては出来るだけ即答できるようにしていますが、状況によっては職員間で検討し出来るだけ早い返答に繋げています。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、情報を収集するようにしています。夏場の溝掃除などは職員が地域の方々と共にいっています。保育所から園児の訪問を受けたり職業訓練校の生徒の受け入れを行い、その来訪を利用者は楽しみにされています。ボランティアがホームを訪れて様々な行事が繰り広げられており、風土記の丘で行われる古代楽器やオカリナの演奏会を聞きに行ったり楽しまれています。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を基に事業所として「いつもそばにいるよ」と掲げ、利用者の思いに寄り添う事をホーム理念として、職員の意見を基に、地域でその人らしくとの思いが込められ作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム入口に理念を掲げ、家族的な関わりの中で、いつもそばにいるように心がけている。申し送りの中でも「そばに寄り添っていたか」確認がなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の行事に参加している。夏場の溝掃除には職員が地域の方々と力を出し合い、風土記の丘で行われる古代楽器の演奏会やコンサートを聞きに出かけている。また、ボランティアの好意で行われるホームでのミニコンサートには地域の文化センターにビラを置かせて頂き、近隣への呼びかけを行い地域交流を進めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を受けて、職員で話し合い改善に繋がるよう検討している。今回の自己評価については、職員に説明を行い意見を募り管理者がまとめている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	元婦人会の方、弁護士、地域ボランティアが参加し2ヶ月に一度運営推進会議は行われている。ホームの状況や取り組みなどの報告を行うとともに、意見やアドバイスをいただいている。地域代表の参加は無いが、見識者やボランティアなどの参加が見られる。	○	事業所や法人に係る方々の参加を得て、2ヶ月1度運営推進会議が行われているが、地域を代表する自治会や民生委員、地域包括支援センター等への呼びかけや家族の積極的な参加を促すなど、一回り大きな参加への声かけをされては如何でしょうか。

さくら園 紀伊風土記の丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の窓口とは気軽に相談できる関係にある。市の介護関連の行事にも積極的に関り、連携を取っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	訪問の際に家族に日々の様子を直接伝え、利用者ごとのアルバムを作り、来訪時に家族に見てもらいホームでの生活が伝わりやすいようにしている。また毎月の請求書と合わせて写真のついた「お便り」を発行し、ホームでの様子を知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見や不満を聞くようにしている。年3回家族会を行っており、食卓を囲みながら家族からの意見や要望を聞く機会をとらえている。出された意見に対しては出来るだけ即答できるようにし、職員間で検討し共有している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	経営者は毎月職員面談を行い、勤務についてはシフトに配慮するなど職員の離職の防止に努めている。新任の職員の採用に際して何人かの入れ替わりがあったが、定着の方向にあり、新任は日勤をしばらく続け、ベテラン職員と共に夜勤を試しつつ、利用者との馴染みの関わりを深めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を職員に知らせ、希望を募って参加している。また職員の参加を促し派遣する場合もある。毎月のミーティングでは実技を含めた研修を多くの資格を有する管理者が講師となり行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム連絡会に参加し情報交換や交流を行っている。知り合いのグループホームとも見学や職員の交流などを行うこともあり、ホームの良さを再確認する機会となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用の開始は即入居とされる利用者が多く、また一階のシルバーマンションからの移動の場合も多く、既に馴染みの関わりの場合もある。馴染みにくい利用者には入居後の数日は細かな配慮を行い対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	朝の掃除は全員で行い、出来る事をして頂けるようにと考えており、野菜の皮むきや、刻むなど日々の調理や、園芸の水やりなどを職員と共に行っている。重度の利用者から、管理者に「あまりがみがみ言わないように」と声がかかるなど、年輪と思える目線に感動を覚える事もあり、共に支え合っている事を実感している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人面談で利用者や家族の思いを聞き取り、記入を行っている。困難な場合には日々の会話やしぐさなどで利用者の思いを引き出すようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族には来訪時に意見を聞き、出来る出来ないシートを基に利用者の思いに沿ったケアプランに繋げている。また、往診時に聞き取った医師や看護師の意見や職員の意見も加味しつつプランに反映しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に一度カンファレンスを行い、日々の記録やミーティングでの職員の観察などを集約しケアプランを見直している。状況に変化がある場合には現状に即して見直しを行っている。		

さくら園 紀伊風土記の丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	理美容院への送迎や、デパートへ化粧品を買いに行くなど利用者の要望に応じているが、買い物への意欲の低下も現状であり、ホームでは業者を呼び衣類など好きなものを買える支援を行っている。また、週3回の透析を受けている利用者には小さなおにぎりの弁当を作り送り出すなどきめ細かな個別対応を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にはかかりつけ医の希望を聞いているが、ホームの協力医療機関の24時間対応などもあり、ほぼ全員が協力医療機関での受診となっている。週2回看護師の訪問があり、医師との連携は24時間いつでも対応頂ける関係にあり安心の医療体制となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療の常時必要とならない限り看取りの対応は可能であると考えており、契約時に家族にも伝えている。重度化の中では、医師と相談の上家族の意向を聞き、体制を整える意向であるが、職員間での検討には至っていない。	○	重度化の過程においては、職員との研修などを通じて思いの共有を図られる事が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いには常に注意し、人権の立場からプライバシーや言葉の意味を絶えず喚起し誇りを損なわない姿勢を保つようにしている。万が一不適切な言動がある場合は職員や利用者同士においてもすかさず間に入って話をするようにしている。書類は事務所の書棚に適切に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由な起床から生活が始まるが、早すぎて朝食を食べた事を忘れられる方などもあり、声かけを工夫する場合もある。ゲームや歌などのレクリエーションの希望を募り行っており、楽しそうな声につられて参加者が増える事もある。昼寝を楽しむ利用者も多く、昼食後の一時に畳コーナーで布団を敷いたり、居室で読書を楽しんでおられたり、自由な生活が営まれている。		

さくら園 紀伊風土記の丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は、利用者のできる事にかかわって頂いており、下ごしらえや調理、下膳と利用者は職員とともに、夏場はぬか漬けを役割にしている利用者もおられた。食事は職員も同じテーブルで会話をしみつつ食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後の昼寝が終わる頃からの入浴が多く、午前午後、就寝前など希望に応じている。1階のシルバーマンションでの機械浴も可能で、状況によっては利用する事が出来る環境です。入浴を拒否される方にはタイミングを見て声かけを行い入浴への誘導を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	朝には利用者と職員が共に清掃を行うことにしている。居室や手すりなど出来る事をするようにし、役割を担って頂いている。多くのボランティアの協力があり、謡曲のお稽古や、ギターで民謡を楽しみ、音楽の先生の音頭で大合唱になったりと楽しみ事がたくさんある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの喫茶店に出かけたり、ホームの前から続く紀伊風土記の丘を散歩している。外に出れない時には、一階のウッドデッキで園芸の水やりやイチゴの世話などで外気浴を楽しんでる。車いすの利用者が増え、風土記の丘の遊歩道への侵入路がなく、大きく迂回しなければならず、構造上の問題で困難な状況が生まれている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠は行わず、出かけたがりの利用者を見ると職員は同行したり、声を掛け話し合うなど対応している。職員は鍵を掛ける事の弊害に対する理解を持っており、出来るだけ利用者の意向に沿うように努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年一度消防署立会いによる避難訓練を行っている。運営推進会議においても声を掛けを行っているが、夜間を想定した訓練は行っていない。	○	夜間想定で少ない職員体制で、どのような事ができ、出来ないことへの体制等検討されては如何でしょうか。

さくら園 紀伊風土記の丘

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記録し、出来るだけ多く水分補給が出来るようにカウンターにお茶を常設するようにしている。体調により粥にしたり、刻み食にするなどの対応が可能であり、分量の調節などを行っている。時々知り合いの栄養士に献立を見てもらいアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	どの窓からも自然の景色が目飛び込む環境で、表には紀伊風土記の丘への遊歩道、裏には池の堤があり、夏には葛の花が香り螢が飛び交い季節感に溢れる環境にある。リビングには畳のコーナーがあり、何人かで枕を並べて休まれる時もある。また金魚やウーパールーパーが水槽で飼われ、利用者の行事参加の写真がたくさん飾られ、和みの空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を活けられていたり、使い慣れた家具に囲まれておられたり、仏壇を持参され日々水を替えられている等、居心地の良い居室作りがなされている。		